

行政経営評価（施策評価）

ライフステージの視点 (生活と時間)	2. 学 ぶ	「学校教育」と「青少年育成」のほか「生涯学習」など、「学ぶ」というキーワードで括れる分野を広義の【学ぶライフステージ】と捉えます。
-------------------------------	---------------	---

施策分野	目指すべき姿
2-① 学校教育	良好な学習環境の下で「生きる力」を育む教育が進められ、子どもの確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれるまち
2-② 青少年育成	学校、家庭、地域が一体となって支援する体制の下で青少年の健全育成が図られるまち
2-③ 生涯学習	すべての市民が、豊かで充実した人生を送るために、ライフステージごとに自発的な生涯学習活動を行うまち
2-④ スポーツ振興	市民が年齢や体力に応じて気軽にスポーツに参加できる環境が整備され、またスポーツを生かしたまちづくりが推進されているまち
2-⑤ 文化振興	市内の貴重な歴史文化を伝える「地質・自然・文化資産」を「銚子資産」として位置づけ、後世へ継承するとともに、銚子ジオパークや日本遺産の取組を生かしたまちづくりを積極的に推進するまち
2-⑥ 大学との連携	市民・行政と「地（知）の拠点」である千葉科学大学とが連携した活動を推進することにより、市民の教育・文化水準の向上と地域振興が図られるまち

■まちづくりの視点

市民の視点	子どもから大人までみんなが学び続ける
行政の視点	知徳体のバランスの取れた教育を目指す
協働の視点	分野・世代・地域を超えた学びの場や機会をつくる

■成果指標と現状

指標名 (対象分野)	計画策定時 (基準年度)	3年後 (2021年度目標値)	5年後 (2023年度目標値)	現状 (最新)	10年後 (2028年度目標値)
① ふるさと学習取組件数 (学校教育)	317件 (2017年度)	300件	320件	209件 (2024年度)	310件
② 生涯学習関連講座の参加者数 (生涯学習)	1,569人 (2017年度)	1,570人	1,570人	2,220人 (2024年度)	1,570人
③ スポーツイベント参加者数 (スポーツ振興)	7,619人 (2017年度)	9,500人	9,700人	4,057人 (2024年度)	9,800人
④ スポーツ合宿施設宿泊者数※ (スポーツ振興)	2018年4月 開業	13,870人	16,600人	9,773人 (2024年度)	19,400人
⑤ ジオツアー参加者数 (文化振興)	2,809人 (2017年度)	2,920人	3,000人	2,608人 (2024年度)	3,200人
⑥ 人口千人当たり市民公開講座受講者数 (大学との連携)	6.4人 (2017年度)	7.6人	8.4人	12.3人 (2024年度)	10.0人
⑦ 千葉科学大学生のうち地元企業に就職した学生数 (大学との連携)	9人 (2017年度)	延べ 40人	延べ 60人	延べ 50人 (2024年度)	延べ 110人

※スポーツ合宿施設：銚子スポーツタウン

成果指標と現状の分析
<p>学校教育の分野では、指標の値は目標値を下回っているが、学校数の減少により取組件数が減少しているもので、取組自体は継続的に行われている。2024年度は、老朽化施設（春日小）の大規模改修など、学校教育環境の改善に努めた。また、2027年4月から市内中学校4校を統合し、（新）銚子中学校を開校する。工事の契約が整わず新校舎整備は統合後に延期となったが、早期整備に向けた準備を進める。</p> <p>生涯学習の分野では、指標の値が順調に推移している。市民センターは、生涯学習活動の拠点として継続して利用できるよう、大規模改修を実施し施設の延命化を図る。スポーツ振興の分野では、指標の値は改善しているものの、目標値を大きく下回っている。大規模スポーツ大会がスタッフ不足などにより中止となったことが影響している。文化振興の分野では、指標の値は順調に推移している。銚子ジオパークは、4年に1度の再認定審査が行われ、2025年1月、日本ジオパークに再認定された。</p> <p>大学との連携の分野では、学生数の減少などの影響で、一部の指標の値が目標値を下回っている。2026年4月から千葉科学大学の運営は、これまでの学校法人加計学園から学校法人大城学園に移行することになり、多くの学生が集まるよう、官学連携を推進していく。</p>

行政経営評価シート

事務事業名	小学校施設大規模改修経費	所管	教育総務室
-------	--------------	----	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(1)-3教育環境の整備
	関連計画	— : 総合戦略
		○ : その他 (公共施設等総合管理計画【個別施設計画編第2期】)
	目的	小学校施設の多くは建築から40年以上が経過し、老朽化が進んでいる。定期的な維持管理を行い、劣化を予防し本来の機能の維持を図る。
	対象	小学校施設及びそこに通う児童、教職員
事業内容	老朽化している施設の大規模改造工事やトイレの洋式化、防災機能強化対策工事などを実施する。令和6年度は、春日小学校の屋内運動場の大規模改修工事を実施する。	

(単位: 千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳			
			国庫支出金	県支出金	市債	その他
	164, 774	129, 941	65, 567		62, 300	

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	工事实施件数	目標値	1校	1校
		実績値	1校	1校
		達成率	100%	100%
		目標値		
		実績値		
		達成率		
		目標値		
		実績値		
		達成率		
事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
()	目標値			
	実績値			
	達成率			
()	目標値			
	実績値			
	達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
老朽化している施設の大規模改修工事（春日小学校屋内運動場外壁、防水、内装等）を実施し、良好な教育環境の整備を図った。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
	高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	維持

事業の課題と改善策	事業の課題	小学校施設の多くは建築から40年以上経過しており、老朽化が進んでいる。老朽化の進行度合いを見ながら、逐次修繕及び工事を実施しているが、費用面や設計などの実務面からも複数の施設（学校）の大規模改修を実施することが難しくなっている。
	課題に対する改善策	
	小学校の統合や銚子市公共施設総合管理計画との整合性を考慮しながら、計画性をもってできるだけ早期に大規模な改修を検討していく。	

行政経営評価シート

事務事業名	不登校対策支援経費	所管	学校教育室
-------	-----------	----	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(1)-3教育環境の整備		
	関連計画	— : 総合戦略		
		— : その他 (—)		
	目的	不登校児童生徒の減少と不登校状況の改善を図る。		
	対象	市内小中学校16校の児童生徒、保護者、教職員		
事業内容	教育委員会に不登校対策支援員を配置し、各学校、関係機関と緊密に連携して、不登校児童生徒の登校支援及び教育相談、定期的な面談や家庭訪問などを行う。			

(単位: 千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	1,303	1,280				1,280	

事業の実績と成果	活動指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
	不登校児童生徒の登下校支援による、欠席日数の抑制		目標値	50件	—
			実績値	49件	—
			達成率	98%	—
			目標値		
			実績値		
			達成率		
			目標値		
			実績値		
			達成率		
	事業成果指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
	不登校児童生徒出現率 (小学校) (不登校児童数 / 全児童数)		目標値	1.3%	—
			実績値	1.5%	—
			達成率	86.7%	—
	不登校児童生徒出現率 (中学校) (不登校生徒数 / 全生徒数)		目標値	4.5%	—
実績値			4.39%	—	
達成率			102.5%	—	
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	維持
	高い	高い	高い		

事業の課題と改善策	事業の課題	
	各学校及び関係機関等との連携	
	課題に対する改善策	
各学校や関係機関等と適切に情報共有することで、対象児童生徒に適した支援を実施できるようにしていく。		

行政経営評価シート

事務事業名	ICT支援員配置経費（小学校分）	所管	学校教育室
-------	------------------	----	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(1)-3教育環境の整備
	関連計画	— : 総合戦略
		○ : その他（ 公立学校情報機器整備事業計画 ）
	目的	学校におけるICT機器を活用した授業の実施、教員へのICT研修、ICT機器の不具合対応・管理などの支援を行える専門知識を持ったICT支援員を配置し、ICT教育の推進を図る。
	対象	市内小学校
事業内容	ICT支援員を配置し、学習支援ソフトウェアを積極的に活用した学習支援、個別授業視察による指導者支援や研修を行う。	

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳			
			国庫支出金	県支出金	市債	その他
	8,168	8,167	242			

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	ICT支援員総訪問時間数（11校×3時間×40回）	目標値	1,320時間	1,320時間
		実績値	1,320時間	1,320時間
		達成率	100%	100%
	研修実施回数 （SKYMENU、情報モラル、MEXCBT、Teams、Kahoot! 等 11校×5回）	目標値	55回	55回
		実績値	39回	46回
		達成率	70.9%	83.6%
		目標値		
		実績値		
		達成率		
事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
ICTに関する課題・質問に対する解決数・解決率 ()	目標値	88件	57件	
	実績値	88件	57件	
	達成率	100%	100%	
	目標値			
	実績値			
	達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
ICT支援員と連携して、教員のICT活用指導力の向上及び次代を担う児童生徒に求められる資質・能力の育成を図った。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
	高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	拡充

事業の課題と改善策	事業の課題	日々進化し続けるICT教育において、教育の質を落とすことのないよう新たなハードウェア、ソフトウェアに対応する知識の習得とそれを活用した指導能力が求められる。
	課題に対する改善策	ICT支援員からサポートや研修を受けながら新たなハードウェア、ソフトウェアに関する知識を習得し、ICT活用指導力の維持・向上に取り組んでいく。

行政経営評価シート

事務事業名	ICT支援員配置経費（中学校分）	所管	学校教育室
-------	------------------	----	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(1)-3教育環境の整備
	関連計画	— : 総合戦略
		○ : その他（ 公立学校情報機器整備事業計画 ）
	目的	学校におけるICT機器を活用した授業の実施、教員へのICT研修、ICT機器の不具合対応・管理などの支援を行える専門知識を持ったICT支援員を配置し、ICT教育の推進を図る。
	対象	市内中学校
事業内容	ICT支援員を配置し、学習支援ソフトウェアを積極的に活用した学習支援、個別授業視察による指導者支援や研修を行う。	

（単位：千円）

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	3,713	3,713	110				3,603

事業の実績と成果	活動指標項目	目標／実績	令和6年度	令和5年度
	ICT支援員総訪問時間数（5校×3時間×40回）	目標値	600時間	600時間
		実績値	600時間	600時間
		達成率	100%	100%
	研修実施回数 （SKYMENU、情報モラル、MEXCBT、Teams、Kahoot!等 5校×5回）	目標値	25回	25回
		実績値	18回	31回
		達成率	72%	124%
		目標値		
		実績値		
		達成率		
事業成果指標項目	目標／実績	令和6年度	令和5年度	
ICTに関する課題・質問に対する解決数・解決率 ()	目標値	28件	57件	
	実績値	28件	57件	
	達成率	100%	100%	
	目標値			
	実績値			
	達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
ICT支援員と連携して、教員のICT活用指導力の向上及び次代を担う児童生徒に求められる資質・能力の育成を図った。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
	高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	拡充

事業の課題と改善策	事業の課題	日々進化し続けるICT教育において、教育の質を落とすことのないよう新たなハードウェア、ソフトウェアに対応する知識の習得とそれを活用した指導能力が求められる。
	課題に対する改善策	ICT支援員からサポートや研修を受けながら新たなハードウェア、ソフトウェアに関する知識を習得し、ICT活用指導力の維持・向上に取り組んでいく。

行政経営評価シート

事務事業名	(新) 銚子中学校整備経費	所管	教育総務室
--------------	---------------	-----------	-------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(1)-4学校規模の適正化
	関連計画	— : 総合戦略
		○ : その他 (公共施設等総合管理計画【個別施設計画編第2期】)
	目的	令和9年4月に(新)銚子中学校を開校する。開校に向け施設整備を進め、安全で良好な教育環境整備を図る。
	対象	(新)銚子中学校及びそこに通う生徒、教職員
事業内容	校舎を新築するほか、統合準備委員会を設置し校名や制服等を決定する。 令和6年度は銚子中学校整備事業建築工事に着手する。	

(単位:千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	137	46					46

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	銚子中学校統合準備委員会開催数	目標値	3回	—
		実績値	2回	—
		達成率	66.7%	—
	銚子中学校整備事業建築工事	目標値	1件	—
		実績値	0件	—
		達成率	0%	—
		目標値		
		実績値		
		達成率		
事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
	目標値			
	実績値			
()	達成率			
	目標値			
	実績値			
()	達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	C:事業規模・内容・主体の見直しを検討	維持
	高い	低い	やや低い		

事業の課題と改善策	事業の課題	銚子中学校整備事業建築工事請負契約に係る入札が不調となり、令和6年度着工予定であった新校舎建築及び屋内運動場改修工事が延期となった。昨今の建築資材の物価高騰や建設業界の人材不足などが影響しており、全国的に大規模な建築事業ができない状況にある。
	課題に対する改善策	予定どおり令和9年4月に統合を行う。 新校舎建築などのハード面の整備は、新校舎供用開始の時期を見据え、校舎や事業全体の規模、事業費、工期などを再検討した上で、可能な限り早期に、かつ、確実に整備することを目指す。

行政経営評価シート

事務事業名	高等学校DX加速化推進事業経費	所管	銚子市立銚子高等学校
--------------	-----------------	-----------	------------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(1)-5市立高等学校教育の充実
	関連計画	— : 総合戦略
		— : その他 (—)
	目的	銚子市立銚子高等学校では、『夢をカタチに市銚魂(スピリッツ)』をスローガンに、あらゆるシーンで生徒が夢を実現できる学びの環境づくりを推進している。その取組みの一つとして、国の高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金を活用し、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化するために必要な環境整備を実施し、デジタル社会に対応できる人材の育成を行う。
	対象	本校生徒
事業内容	○ICT機器整備及び理数教育設備整備 ○外部専門講師の活用(地域おこし協力隊) ○理数系・情報系大学見学	

(単位:千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	10,000	9,122	9,122				

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	外部専門講師(地域おこし協力隊)による講習会実施回数	目標値	12回	—
		実績値	10回	—
		達成率	83.3%	—
	外部専門講師(地域おこし協力隊)による講習会参加生徒数	目標値	15人	—
		実績値	10人	—
		達成率	66.7%	—
	理数系・情報系大学見学(R6年度1年次対象)	目標値	6クラス	—
		実績値	1クラス	—
		達成率	16.7%	—
	事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	Wi-Fiアクセスポイント増強 (アクセスポイント18台、ルーター3台)	目標値	21台	—
実績値		21台	—	
達成率		100%	—	
ICT機器の設置 <small>(DXワイヤレスセンサ導入セット1セット、レゴSPIKEプライム15セット、3Dプリンター及び高性能PC各2台、電子黒板1台、ワイヤレスHDMIエクステンダー4台、デジタルマルチメーター3台)</small>	目標値	28台	—	
	実績値	28台	—	
	達成率	100%	—	
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
○国の補助金を活用し、予定していたICT機器及び理数教育設備の整備を行うことができた。 ○文理選択前の1年次に実施予定であった理数系・情報系大学見学は、2年次理数科生徒を対象に千葉大学工学部研究室の見学を行った。 ○地域おこし協力隊を活用した「IoTでものづくり」を8月より開始し、1年次8名・2年次2名の参加により計10回実施した。また、参加した1年次8名のうち7名が理数科へ進級した。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	維持
	高い	高い	高い		

事業の課題と改善策	事業の課題
	令和6年度で理数科の探究活動に必要なICT機器を整備することができたので、今後は、それらを学習活動の中に取り入れていく。そのためには、整備した機器を使いこなすなど学習活動への活用を図り、指導できるスキルを持った教員が必要となる。
	課題に対する改善策
	理数探求、総合探究に係わる教員には、機器の使い方やメンテナンス方法など職員研修を通じて伝達していく。

行政経営評価シート

事務事業名	市民センター大規模改修経費	所管	市民センター
-------	---------------	----	--------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(3)-4その他【生涯学習】		
	関連計画	— : 総合戦略		
		○ : その他 (公共施設等総合管理計画【公民館長寿化計画】)		
	目的	市民が生涯学習活動の拠点として継続して利用できるよう、施設の延命化を図る。また、災害時の避難場所としても安全に利用できる施設を目指す。		
	対象	一般市民		
事業内容	老朽化した建物及び施設等の改修			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳			
			国庫支出金	県支出金	市債	その他
	12,848	6,818			5,700	1,118

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
		市民センター大規模改修実施設計業務	目標値	1件	—
実績値			1件	—	
達成率			100%	—	
			目標値		
			実績値		
			達成率		
			目標値		
			実績値		
			達成率		
	事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
	()	目標値			
		実績値			
		達成率			
	()	目標値			
実績値					
達成率					
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載					
実施設計業務を年度内に完了させたほか、展示室のエアコン更新事業を前倒して着手した。(一部翌年度繰越し)					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
		高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当

事業の課題と改善策	事業の課題
	大規模改修工事の実施に伴い、一定期間、施設の利用制限をしなければならず、一時的な利用者数の減少と使用料の減少が見込まれる。
	課題に対する改善策
	大規模改修の実施により施設利用に影響を及ぼす支障の発生を防止、市民が継続して安全、快適に利用できる環境を整え、併せて、教室等の事業の見直しを図ることで、利用者数の増加、使用料収入の増加につなげていく。また、光熱水費の高騰などによる経費の上昇に対応するため、使用料の見直しを進める。

行政経営評価シート

事務事業名	埋蔵文化財保存経費	所管	文化財・ジオパーク室
-------	-----------	----	------------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(5)-1埋蔵文化財（余山貝塚）の保存		
	関連計画	— : 総合戦略		
		— : その他（ — ）		
	目的	銚子市指定史跡「余山貝塚」を後世に適正な姿で継承していくために、本質的な価値を評価するとともに、適正に守り伝える範囲を明らかにし、保存と活用を推進する。		
	対象	余山貝塚、貝塚の土地所有者、余山貝塚美化の会会員、市内・市外の住民		
事業内容	①総括報告書の作成（総合的な評価/保存範囲の検討/評価に必要な補足的な整理作業） ②指定に向けた同意書取得及び公有化計画の立案			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	3,623	4,225	2,050	250		926	999

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
		余山貝塚保存検討委員会議の開催	目標値	2回
実績値			2回	2回
達成率			100%	100%
ふるさと学習での説明会開催回数（市内小学生対象）		目標値	—	—
		実績値	3回	4回
		達成率	—	—
事業成果指標項目		目標/実績	令和6年度	令和5年度
()	目標値			
	実績値			
	達成率			
()	目標値			
	実績値			
	達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
出土品の整理作業、貝層サンプルから抽出した動物の骨などの分析、文献調査等を実施した。 全国に収蔵されている資料の情報収集及びリストの作成を行った。 余山貝塚保存検討委員会議の中で、発掘調査の成果から指定範囲を検討した。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
		高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当

事業の課題と改善策	事業の課題 総括報告書の作成に必要な各種調査の作業量が多く、埋蔵文化財専門職員の増員が必要である。 文化財指定された土地には現状の変更に強い制限がかかることから同意取得が難しいことも想定できる。 余山貝塚の価値を発信し、指定に向けた市民の機運を高めていくことが重要である。
	課題に対する改善策
	検討した指定範囲の土地所有者を整理し、同意取得のために丁寧に説明を行い、理解を得ていく。 市民に向けた余山貝塚の重要性を伝える講演会等を実施する。 総括報告書作成に向けた作業量を明確にし、進行管理を徹底する。

行政経営評価シート

事務事業名	銚子資産活用経費	所管	文化財・ジオパーク室
-------	----------	----	------------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(5)-2「銚子資産」活用の促進		
	関連計画	○ : 総合戦略		
		— : その他 (—)		
	目的	官民協働で持続可能な文化財保護の仕組みを構築するとともに、地域住民が郷土に誇りと愛着を持ち、地域社会全体で文化財を保存する機運を高める。眠っていた地域の個性を引き出すことで、新たな観光資源とする。		
	対象	銚子資産、市内・市外の住民		
事業内容	地域に所在する文化財を指定・未指定に関わらず幅広く把握し、その価値を発信する。文化財を官民協働で適切に保存・活用し、まちづくりや観光資源としての活用を推進する。			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	3,128	2,357				1,494	863

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
		主催事業の開催（歴史的建造物の公開活用・文化財観光ガイド養成講座・郷土芸能のつどいなど）	目標値	4回
実績値			6回	6回
達成率			150%	150%
		目標値		
		実績値		
		達成率		
		目標値		
		実績値		
		達成率		
	事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
主催事業への参加者数 (銚子資産活用事業への参加者)	目標値	600人	550人	
	実績値	905人	837人	
	達成率	150.8%	152.2%	
	目標値			
	実績値			
	達成率			
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				
銚子資産活用協会へ負担金を支出し、官民協働で各種事業に取り組むことができた。また、これまで市民からの要望があった収蔵資料の展示会や文化財関連講座を開催し、今後も継続的な開催に期待が寄せられている。				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
		高い	高い	高い	A: 計画どおりに事業を進めることが適当

事業の課題と改善策	事業の課題
	銚子市文化財保存活用地域計画に基づき、官民協働で銚子資産の保存と活用に継続して取り組むことが可能となるように、銚子資産に触れる様々な機会を創出し、文化財保護の主体となって活動できる人材の確保に取り組んでいくことが重要である。また、文化財保存活用地域計画策定から5年が経過しようとしていることから、計画の見直しを行うに積がある。
	課題に対する改善策
	銚子市文化財保存活用地域計画を様々な機会でも周知し、文化財保護の目指す目標を伝える機会を作ると同時に、保護活動を実施している市民団体等からの意見を活動に反映していく。また、市民団体等の活動を発信し、見える化することで、保護に携わる人材を見出していく。

行政経営評価シート

事務事業名	銚子資産を活かした「学び」創出経費	所管	文化財・ジオパーク室
-------	-------------------	----	------------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(5)-2「銚子資産」活用の促進
	関連計画	○：総合戦略
		○：その他（文化財保存活用地域計画）
	目的	各世代に応じた「学び」の視点で市内周遊ルートなどを開発するとともに観光誘客にもつなげ、持続可能な文化財の保護の仕組みを構築する。
	対象	市内・市外の住民、銚子資産（歴史文化・自然・地質・地形遺産など）、文化財所有者、教育関係者、観光関連事業者
事業内容	①ジオパーク・芸術センターの展示室の整備と「教育旅行」の拠点化 ②日本遺産「北総四都市江戸紀行」等のストーリーを活かした「学び」の視点を備えた市内周遊ツアーの開発及び整備 ③銚子の歴史文化・自然を活かした教育プログラム造成とワンストップで提供できる体制の構築	

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	32,840	27,934	12,467			12,078	3,389

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	主催事業（資料の企画展やワークショップなど）の実施	目標値		28回
実績値			36回	31回
達成率			128.5%	124%
連携が図れた地域で活躍している事業者数	目標値		10人	8人
	実績値		12人	9人
	達成率		120%	112.5%
造成したプログラムによる誘客数	目標値		180人	150人
	実績値		1,172人	1,026人
	達成率		651.1%	684%
事業の実績と成果	事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度
	拠点施設への来館者数 (各種事業への参加者数及び見学者数)	目標値		4,000人
実績値			5,305人	4,189人
達成率			132.6%	261.8%
造成したプログラムを使用した市内宿泊者数 (アンケート調査により宿泊者数と確認)	目標値		40人	30人
	実績値		165人	86人
	達成率		412.5%	286.7%
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載				

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性		
	高い	高い	高い		
				D:事業の統合・休廃止を検討	終了

事業の課題と改善策	事業の課題	市民及び来訪者に銚子資産を活かした各世代に応じた「学び」を提供し、ふるさとの魅力を再発見することで郷土愛の醸成につなげるとともに、市民との交流の機会として関係人口や交流人口を創出するための効果を高め、継続した事業展開ができる体制の構築が必要である。
	課題に対する改善策	令和6年度で事業終了。 引き続き、市内民間事業者との連携により、歴史文化・自然を活かした観光振興及び地域振興を推進できる体制づくりを進めていく。

行政経営評価シート

事務事業名	銚子ジオパーク支援経費	所管	文化財・ジオパーク室
-------	-------------	----	------------

事業の概要	総合計画上の位置づけ	2-(5)-3銚子ジオパーク活動の推進		
	関連計画	○ : 総合戦略		
		○ : その他 (文化財保存活用地域計画 国指定名勝及び天然記念物「屏風ヶ浦」保存活用計画)		
	目的	貴重な地質・地形遺産を保全し、その上に成り立つ自然や歴史・文化、人の営みを含めて教育やツーリズムに活用することで、郷土への愛着と誇りを醸成し、その魅力を広く発信することにより多くの来訪者を誘致する。さらにこれらの活動を通して地域の持続可能な開発を促す。		
	対象	市内に所在する地質・地形遺産、市内・市外の住民		
事業内容	ユネスコ世界ジオパークと日本ジオパークの基本理念にのっとり、科学的価値を有する地質・地形遺産を保全し教育やツーリズムに活用する事業を展開している銚子ジオパーク推進協議会の一員として活動し、必要な経費の一部を負担する。			

(単位：千円)

事業費	予算現額	決算額	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	6,048	6,040				6,040	

事業の実績と成果	活動指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度	
	ジオツアーの実施	目標値	100件	30件	
		実績値	94件	80件	
		達成率	117.5%	266.7%	
	主催・共催イベントの開催 (ジオパーク講座、夏休み親子自由研究ツアー、ジオパークまつりなど)	目標値	24回	10回	
		実績値	21回	10回	
		達成率	87.5%	100%	
			目標値		
			実績値		
			達成率		
事業成果指標項目	目標/実績	令和6年度	令和5年度		
ビジターセンター来訪者数 (犬吠埼のビジターセンターにおいて案内対応した人数)	目標値	35,000人	25,000人		
	実績値	40,980人	39,714人		
	達成率	117.1%	158.9%		
ジオツアー参加者数 (協議会が受付をした人数)	目標値	2,200人	2,000人		
	実績値	2,608人	2,211人		
	達成率	118.5%	110.6%		
事業成果の説明 ※上記の指標による数値で表せない場合は、本欄のみ記載					
市内外の学校に対して多くの学習支援を実施した (延べ33件、延べ1,178人)。 市内各地にあるジオパーク看板の修繕を実施した (4箇所)。					

事業の評価	評価視点			総合評価	今後の方向性
	必要性	有効性	効率性	A: 計画どおりに事業を進めることが適当	維持
	高い	高い	高い		

事業の課題と改善策	事業の課題
	ジオパーク活動の3つの柱である「教育」「保全」については計画的に取組んでいるが、「地域振興」の分野は明確に効果が出ていない状況である。推進協議会の委員会活動を活発に実施し、構成団体の力を引き出し、バランスよく推進できるような体制を構築していく必要がある。
	課題に対する改善策
	委員会活動を定例化し、協議会活動の「現状を共有する」「意見を集約する」「意思決定の方針をまとめる」組織とすることを旨とする。